

+幸せを探すあなたへ

象牙の塔ですか 牛骨の塔ですか



競争力をなくした暗やみの大学文化 少し前、アメリカのアイビーリーグ(Ivy League) 8つの大学の中一つのダートマス大学(Dartmouth College)の17代総長にアジア人最初の韓国系キム・ヨン博士が選出されたといううれしいニュースがありました。一方、スイス国際経営開発研究所(IMD)が発表した2008年世界国家競争力の順位を見ると、

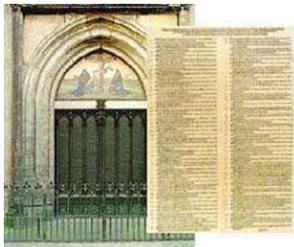
韓国の大学教育が競争社会が要求するのに符合する程度は、調査対象国55ヶ国中の53位だと発表され、2007年世界大学順位発表によればソウル大学はやっと51位を占めるだけです。いったいアイビーリーグ大学と韓国大学の差は何でしょうか。いろいろな要因があるでしょうが、最も大きい理由は韓国の大学が競争力ある人材を養成できなくなっているということにあります。多様なチャンネルを通して潜在力がある学生を発掘して出すアイビーリーグ大学とは違って、成績優秀者だけをまず選別する学校目標の差もあって、大学に根を深くおろしている墮落文化の慣行も排除できません。そのような事実を反映しているかのように、新学期になれば、新入生の死のニュースに簡単に接するようになります。もちろん、他の国でも新入生歓迎会があるでしょうが、唯一、韓国では酒による新入生事故が絶えることなく続いています。一方、13日に高麗大では、学費問題でハンガンで亡くなって発見された高麗大生のチョン氏の追悼集会を開き、大学の学費の引き下げを要求しました。一年(2007年)に大学の学費で入る金額が10兆ウォン(約7千億円)を越えると言われていました。1950~60年台に貧しい農家で牛を売って用意した学費で立てた大学という意味で使われた牛骨塔というたとえが、文化と物質で墮落してしまった大学を代弁する単語として、また登場しているのが私たちの残念な現実です。なぜ、このように大学の文

化は暗やみと墮落の中に簡単に陥っているのでしょうか。教育制度や学生たちの水準を恨む前に、根本的な問題があります。人が変わらなくては、いくら良い環境と教育があっても、結局は、一時的に取り繕う策に過ぎないのです。

不幸の開始と終わり 聖書には人間がサタンという霊的な存在の策略に陥って神様を離れた瞬間から、不幸な運命に陥るようになったと語っています。最初に、自分も知らない間に、悪魔の影響を受けるようになってしまいました(ヨハネの福音書8:44)。だから、幸せなはずがありません。二番目、人生を生きていくほど不安と恐れが訪れてきます。それで、偶像崇拜をしたり、先祖供養をしたり、お守りに頼って、車にステッカーやお札をつけて通ったりもします。三番目、心のむなしさは、より一層激しくなって、結局、目に見えないように心の病気になって、激しい悪夢にもうなされるようになり、不眠症、幻聴、幻覚に苦しめられて、極度の不安から、うつ病や、そううつ状態になり、日常生活まで正しくできなくて孤独に苦しめられる人々がますます多くなっています。四番目、自然にからだの健康も崩れるようになって、あらゆる病気に苦しめられるようになります。五番目、結局、人間は死ぬようになって、地獄という永遠な苦しみと刑罰の中に陥るしかありません。六番目、私が持っていた良い点と悪い点など、霊的な問題と偶像崇拜の呪いが、驚くべきことに子どもにすべて伝えられて、不幸の相続が続きます。この問題を解決するのが福音です。その福音の主人公がまさにイエス・キリスト、その方だけが人間のすべての問題を解決する完全な解答であることを聖書は確かに明らかにしています。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです」(ローマ人への手紙8:1~2)

長老伝道企画時代 第2の宗教改革



マルティン・ルターの宗教改革

マルティン・ルターは、1483年11月ドイツのアイスレーベン(Eisleben)で生まれました。彼はお父さんの指導にしたがって法学をして、修道院に入ったのですが、そこで多くの葛藤の中で、ローマ1章16~17節の「義人は信仰によって生きる」というみことばを通して、人間の救いは行いではなく信仰であるという事実を悟って、ローマカトリック教会の誤った信仰と贖宥状(しょくゆうじょう)の害について論じるようになりました。ルターは「ただ信仰、ただ恵み、ただ聖書」を強調しました。しかし、このようなルターの主張が全く受け入れられないので、結局「95ヶ条の論題」を1517年10月31日ヴィッテンベルク城教会の前に張り出しました。ひとりの正しい信仰告白が、全ヨーロッパと世界を変える教会改革の出発点になったのです。

長老の伝道企画-第2の宗教改革 今、私たちは教会危機時代の中に生きています。伝道がだめな程度ではなく、福音自体も喪失した時代を生きていきつつあります。この時、世界のどの教団でもしない長老の伝道企画の集いは、第2の宗教改革だと言えるでしょう。教会は代表者が伝道で一つになれば、恵み深い福音共同体のモデルになることができます。長老が集まって、どのように伝道するのかと悩むのは、とても重要なことです。単純な集いでなく、いのちを生かす福音の当然性(使徒 1:1、3、8)を持って、神様が答えられるしかない福音の必然性(聖霊の内住、導き、満たし)を持って、絶対に変えられない神様の道しるべと時刻表、一時代を準備された完全な計画を見ながらすることです。それでも、長老がカバン持って伝道しに歩き回るのは聖書的ではありません。むしろ、長老は伝道弟子があちこちに集まるように手助けして、行って力を与えれば良いのです(出 3:16、ヨシュア 3:1~3、民 14:1~10、使徒 9:1~43)。それで、教会ではすべての信徒が参加することができるようにチーム構成をして、特別に小学生から大学青年、海外に出て行って入ってくる次世代と、長老が5人1組のチームになって、後見人の役割をするなど、全体的な状況を知っていなければなりません。このように始めるのが長老伝道企画の開始です。



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決して下さったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子どもへの五つの確信

救いの確信：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)

祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前前で何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

導きの確信：神様は聖霊であなただの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)

赦しの確信：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

勝利の確信：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)



神様の子どもへの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

I am your Energy パウロ、恐れてはなりません!

最近、感性的キャンペーンで大当たりした広告が、GS カルテックスの企業イメージ広告です。会社の名前を隠して、感性を刺激するコピーで、人々の気を引いて15日後に自分の会社の広告であることを明らかにしました。顧客を相手に面接する中で、人々がエネルギーという話を聞いた時、浮び上がるのが感性的な面という事実に着目して、これを適用したということです。それで、大学の近くには「就職しておごりたいという人、その人があなたのエネルギーです。I am your Energy.」、デパートの近くでは「食事の仕度をしたくない日、今晚、外食しようという人、その人があなたのエネルギーです」というように、7つの特性の地域を分類して、そこに合うコピーを書いたということです。今や広告も、見る人の気持ちを動かす広告が大当たりする時代です。

世の中を変える力 それなら聖書が話す、世の中を変えて人を変える力は何でしょうか。人はいくらレベルが高くても、自分の考えとレベルを越えることは難しいです。聖書が話す力は、私の考えとレベルを越えるようにする力です。今でも、イスラム教の人は、一日に四回ずつ祈りながら、その力を持って世界を掌握していきつつあります。悪霊の力を利用して、多くの宗教団体とニューエイジ運動が人々を掌握していきつつあります。それなら、暗やみの勢力に勝って、私の考えとレベルを越えるようにする真の力は何でしょうか。それが、まさに福音の力で、福音を味わう祈りの力です。救われた神様の子どもが神様を見上げること、神様に向かった集中が祈りです。イエス様がくださった祈りの課題のとおり、聖霊に満たされることを求めるのが祈りです。福音の中にすべてが準備されています。それで、毎日、イエスがキリストであることを告白して体験すれば良いのです。必ず、神の国が臨んで、聖霊のみわざが現れるようになっていきます。私たちが24時間を送りながら、最も貴重な時間を神様にささげて、最も貴重なインマヌエルを味わえるならば、残りのことはできるようになっています。すべての出会いの中で呪いが崩れて、祝福の計画が成されるようになるのです。

人生ストーリー - パウロ、恐れてはなりません! 時代に最も大きい影響力を与えた人物(マルティン・ルター、ムーディー、クロスピー)と聖書の成功した人物を見れば、幼いころから神様のみことばが整理されていたということが分かります。すでに神様がくださった契約と夢を持ったヨセフは、問題と兄たちのいじめ、奴隷生活、ポティファルの奥さんの甘い誘惑、くやしい監獄生活、エジプトの総理としての成功の前でも揺れないで超然としていました。神様がくださったみことばで自分の人生ストーリーが整理されていけば、揺れません。先に福音に対する整理が、確かになっていなければなりません。20の聖書的伝道戦略が、私の人生の唯一の解答と答えとして整理されなければなりません。そして、私の職業、職分、環境によって神様と教会の牧会者と通じる裏面契約がなければなりません。これを置いて神様の前に重要な時間を持たなければなりません。そうすれば、必ず答えと方向が出てきます。自然に、私がそれをいつしななければならないのか時刻表が出てくるようになっていきます。パウロは3つの人生ストーリー(使徒 19:21、23:11、27:24)を握って祈りながら導かれる中で、ローマを征服しました。神様はご自分の民を放置しないで世話してくださるので、私の人生ストーリーを持って進んでみことばを宣言する時、すべての問題は、解決するようになります。この時、はじめて私を越えて神様の恵みを、やることを越えて神様の計画を、答えを越えて神様の願いを、祝福を越えて神様の契約を、人の愛を越えて神様の愛を伝える、一生涯忘れないフォーラムが次世代の胸に伝えられます。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

23日(月)

復興時代に備える人々(使徒 6:1~7)

私たちの人生は神様の御手にあるから、神様が必要とする人になれば、どんな場合もほろびません。祈りとみことば、自分の専門性に集中できる人、信仰と聖霊と知恵に満たされて、ほめられる人が、まさにその祝福の主役です。

24日(火)

弟子運動のモデル(テモテ 2:1~7)

世の中と人を生かす最高の方法は、福音を持った弟子を所々に立てることです。教会の内と外で福音、祈り、みことばを握って聖霊の導きを受ける弟子を立てて伝道運動が起きる時、その地域に聖霊の働きが始まります。

25日(水)

重要な五つを見つけ出さない

(テモテ 2:1~7)

祈りはすべてを動かす奥義です。祈りの中で私の仕事、学業、人生が出てきたら、必ず答えを受けるようになります。祈りの中で私のアイデンティティー、私に与えられた祝福を見つけ、味わえば、弟子と専門性の門が開かれ、教会を生かす未来の重職者として準備されます。

26日(木)

祈る人なんだな!(テモテ 2:1~7)

人に会ってみれば感じるがあります。「この人は祈る人だな!」と感じられたら、最高の影響を与えられます。祈りがなるということは、すべてのことができるということです。少しだけ祈りに集中できるならば、何も問題になりません。

27日(金)

弟子のモデル(テモテ 2:1~7)

祈りに集中できて、祈りの力を得ることになったら、どんなことにも落胆したり、不平不満に陥らず、多くの人を生かす素晴らしい人になります。この祈りの奥義をもって、ともに聖霊の働きを見て体験する人が弟子のモデルです。

28日(土)

キリストの中にすべてがあります

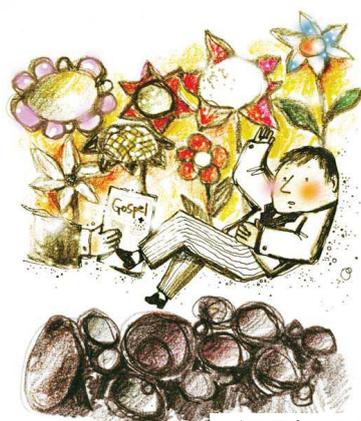
(使徒 1:1~8)

イエス・キリストが私の主人になる時、暗やみの勢力は逃げて、神の国が臨むようになります。すべてのことに祈りが優先されるようになって、生活と祈りがつながれば、福音の中にすべてがあることをあかしする証人の生活を送るようになります。

週間メッセージ

産業宣教	世の中の力と教会(創世記 11:1~8)
伝道学	勉強する習慣(テモテ 3:14~17)
核心訓練	チームの働きとキャンプ (使徒 2:41~42)
聖日1部	ヨセフの確信(創世記 45:1~5)
聖日2部	パウロ、恐れてはなりません (使徒 27:10~25)

地獄に行かないでください



イラスト_ユン・スルギ

学習効果というものがあって、人々はいつのまにか、すべての活動がその学習により支配される。食事する時に手を使うのを見れば、韓国の人々は右手だけをおもに使うように指導されたので右手を使うが、西洋人は両方の手を使う。筆記する時も同じで、外国人が左手で文を書くのを見る時、不安定だと見えて不便に思えるのは私たちが持った学習効果のゆえで、彼らは何の不便もなく日常生活を送っていく。

人々の恐れの中にも、こういう学習効果がある。夜遅く通うなど教訓するのが行き過ぎて、悪霊の話がむしろ苦痛をあたえる場合も多いが、特に地獄に対する観念を聞いてみれば、とんでもないことが多い。人々は天国は信じないけれど、地獄に対する恐れにおいては信仰の段階を越えて、相当な知識を所有していることもある。

根源を分らない、こういうとんでもない知識の地獄世界が、シャーマニズムと宗教の力を借りて、ほとんど常識のレベルで活用されている。彼らは地獄も一つの領域だと考えて、支配者がいると信じている。そして、たぶん悪霊の王であるサタンが地獄の王ではないだろうかと思っている。えん魔がまさに、それだと信じる人も多い。宗教は、それを放っておいたり、あるいは誇張して助長する。

地獄は言葉どおり、地下の監獄だ。閉じ込めるために作ったところであるから、犯罪者が行く所だ。世の中の法律を破った者は、世の法律どおりに罰を受けて、神様の法を犯した者は永遠な罪を犯すようになる。地獄に行って苦しみを受ける悪魔が、人をだます一環が地獄で、その学習効果が今も人々を縛っていることは残念なことだ。

天国を造られた神様は、地獄も治めておられる。地獄は、悪魔が行って苦痛を受けて押さえられる、永遠に苦勞する所であって、悪魔が地獄を治めたり、そこで統治したり、力を使う所ではない。公然と人々

の恐れを助長して、悪魔が地獄の王のように振る舞って、また他の善良な人々を苦しみに陥るようにならざることを防がなければならない。ただ、この地で信仰告白だけが救いになって、地獄へ行く道を防いで、全く地獄に行くつもりがなくても、救いの祝福を受けることができない人は、永遠な火によって、彼をだますサタンと共に永遠に苦しみを受けるようになる。行ってみれば分かると話すだろうが、行かなくて確信するのが、行って確認することより良いだろう。行って、なければそれでよいが、もし地獄に行った時、結果が事実ならば、その価格は、だまされた値段とは比較がならない問題になるのだ。

天国があるように、地獄は必ずあって、地獄の王はえん魔でなく、その支配者は神様だ。地獄は悪魔を閉じる込める監獄なのに、悪魔が行く所に従う人々がともに行くのが地獄なので、苦しみを受ける地獄に行ってはならないと、伝道者があなたに付けて回っているのだ。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまで連絡してください